

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 27 年 9 月 17 日 (2015.9.17)

【公開番号】特開 2014-33380 (P2014-33380A)
 【公開日】平成 26 年 2 月 20 日 (2014.2.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-009
 【出願番号】特願 2012-173611 (P2012-173611)
 【国際特許分類】

H 0 4 M 1/03 (2006.01)
 H 0 4 M 1/00 (2006.01)
 H 0 4 M 1/05 (2006.01)
 H 0 4 R 1/00 (2006.01)
 H 0 4 R 17/00 (2006.01)
 H 0 4 R 3/00 (2006.01)
 H 0 4 R 1/02 (2006.01)

【F I】

H 0 4 M 1/03 C
 H 0 4 M 1/00 H
 H 0 4 M 1/05 C
 H 0 4 R 1/00 3 1 7
 H 0 4 R 17/00
 H 0 4 R 3/00 3 1 0
 H 0 4 R 1/02 1 0 2 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 7 月 29 日 (2015.7.29)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

軟骨伝導振動源と、前記軟骨伝導振動源を駆動する回路と、一対の電源端子と、一対の駆動信号入力端子とを有し、これらが一体化されてなる軟骨伝導振動源モジュール。

【請求項 2】

前記回路は、音響処理回路と、昇圧回路と、アンプを含むことを特徴とする請求項 1 記載の軟骨伝導振動源モジュール。

【請求項 3】

前記回路は、前記音響処理回路による軟骨伝導音響処理のための定数又は処理テーブルが書き込み可能な記憶部を有することを特徴とする請求項 2 記載の軟骨伝導振動源モジュール。

【請求項 4】

金属板と、前記金属板の両側にそれぞれ貼り合わされる一対の圧電セラミックス板を有し、前記回路は、前記金属板の片側に配置されると共に前記一対の電源端子と前記一対の駆動信号入力端子が前記片側に配置されることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載の軟骨伝導振動源モジュール。

【請求項 5】

前記金属板は、前記一対の圧電セラミックス板の共通電極となるとともにスルーホール

が設けられ、前記スルーホールを通して前記回路と前記片側と反対側の圧電セラミックス板の対抗電極が接続されていることを特徴とする請求項４記載の軟骨伝導振動源モジュール。